

## 令和2年1月 経営協議会議事録

- I. 日 時 令和2年1月16日(木) 14時00分～16時26分
- II. 場 所 学術総合センター 一橋講堂特別会議室101～103 (1階)
- III. 出席者 徳久学長、有馬、犬養、岩田、加賀見、河田、黒木、島田、銭谷、西堀、萩原、船橋、宮坂  
中谷、関、山田、松浦、堀、小澤、中村、米村、金原、中山、山本各委員
- がざー 桑古監事  
(欠席者：渡邊、香藤、正宗各委員)

- IV. 前回議事録について  
原案のとおり承認された。

### V. 審議事項

1. 中期計画の変更について

中谷理事から、中期計画の変更箇所(①小中台東宿舎他の土地及び建物の譲渡、②医学系総合研究棟整備等事業(PFI事業)の債務負担の変更、③医学部医学科の収容定員の変更)について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

### VI. 報告事項(◎学外委員、○学内委員)

1. 令和2年度予算(案)について

松浦理事から、令和2年度予算(案)について、資料に基づき報告があった。

2. 「国立大学改革方針」について

徳久学長から、「国立大学改革方針」について、資料に基づき報告があった。  
主な意見は以下のとおり。

◎ 資料について、1ページに大体4項目ずつ記載しているが、私だったら最初に全員留学というのを出して、そして学位プログラム等があるという構成にする。最後にまた全員留学が出ることになるが、それはそれでよいと思う。

◎ 博物館にいと、特別展などいろいろな展示があつて、必ず解説文がつく。その解説文が非常に難しいのだが、担当した学芸員の方が説明すると非常によくわかる。だから、あなたが今説明したような内容を書いたらどうですかといつも言っている。今日は学長のお話をお聞きして、本当にすばらしい構想だと思った。すごくわかりやすい。ただ、この要約したページは私どもの博物館の展示解説と一緒に、ストーンと落ちないという印象を受けた。1つは1枚の紙に書き込み過ぎているということ、それからカタカナが多過ぎるということ。1枚目と2枚目は、1ページの情報量をもう少し減らしたらよいのではないか。また、例えば、最後のページで、先進科学プログラム、22年、日本唯一の教育システムとある。千葉大学がこれまで本当にご努力されてきたことなので、もっと強調したらよいのではないかと思った。いまだに日本国中の大学がやっていない中、千葉大学はずっとやってきている。そういう

ことはもっと書いた方がよいと思う。先進科学プログラムが飛び入学のことであるとはわからないのではないか。それから、附属学校について、兼任教員制度というのは非常によいと思った。附属学校は最先端の教育を行い、学級担任制プラス教科担任制をどんどん取り入れたらよいのではないかと思う。

- ◎ 教員人事について、若手、女性、外国人と記載があるが、具体的にどのように進めるかというのが一番大きな問題だと思うので、そこを強調された方がよいと思う。
- ◎ 2ページ目に全統合型総合大学と書いてあるが、この統合と総合というのはどう区別されているのかと思った。総合というのは総合大学とか、単科大学とか、そういう意味で使っていると理解したが、総合と統合はかなり意味が違うのではないかと思った。空海が平安京に作ったとされる綜芸種智院では、綜芸の綜という字は、糸偏に宗教の宗と書き、意味は総合に近い。単に何かを寄せ集めたのではなく、いろいろなものが化学反応を起こして新しいものを作り上げていく。本来はそういう意味が入っている。資料で、青、白、赤の3つの山があって、横串で革新医療創生や次世代創造共同研究等と書いてあるが、これがまさにいろいろな山を貫くことを通じて新しいことを作っていくという気持ちだと思う。そこを一番にこの資料に出すとインパクトがあると思う。
- ◎ 私も皆さんと同じような感想を持っている。あえて言えば、1ページ目、2ページ目、特に2ページ目で目立ちたいものをもっと文字を少なくして明確にするということである。2. ①以降が環境整備として、千葉大学がお考えになっていることを支えていくというようなデザインにするとすごくよくわかる。そのことと2. ⑦の規模については、離れたほうがよいと思う。資料としては、最後に持っていくような話だと思う。
- ◎ 社会のニーズ、世界のトレンドでは、デジタル社会と環境が大きなテーマである。2. ⑦の教員養成機能高度化に記載のある英語教育コースやプログラミング教育コース、現職教員リカレント教育は非常にポイントを突いていると思う。2. ⑧の学生指導 SDGs も大変的を得ていると思う。千葉大学として、デジタル革命と環境問題をもう少しクローズアップするとよいのではないかと思う。

### 3. 大学院総合国際学位プログラムの設置について

中谷理事及び小澤副学部長から、大学院総合国際学位プログラムの設置について、資料に基づき報告があった。

主な意見は以下のとおり。

- ◎ この制度は画期的だと思う。例えば他大学では研究所を作っても学位を出せないことがあった。学位は学部が押さえていて、学生は学部の先生について大学院に上がるようになっていた。この制度ですばらしいと思うのは、学生が自分でアレンジして新しい教員を選び、一つの分野を開拓することができるということである。日本の大学院教育の中で新しい方向性を出したものだと思う。
- ◎ 千葉大学ならではの新しい大学院だと思って大変感激した。ここを修了してどのような人材になるのかといえば、環境問題や社会問題を実際に解決できる実務家、専門家を育成するということである。この分野は日本でも多数の研究者、指導者が

おられると思うが、海外に進んだ研究実績があると思う。学生自身が課題を設定して独自に研究計画を立てるということであるが、海外の協力校で一定期間勉強や研究をする、国際機関にアクセスできる、あるいはいろいろな企業の中で仕事をしながら経験を積むといったことも可能なのか。

- ENGINEプログラムもあり、海外留学は大学院でも必須となる。国際学位プログラムなので、当然海外にもアクセスでき、インターンシップや協力校もある。すでに学部学生が行っているので、それをさらに高度化して、テーマに合わせて行く形になると思う。
  - 実践演習科目の中で、インターンシップやボランティアを海外で行うという計画もある。課題探究科目や研究指導・修士論文の作成でも、大学院生は研究留学が中心になると思う。
4. 平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果について  
中谷理事から、平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果について、資料に基づき報告があった。
  5. 令和元年度科学研究費助成事業の配分について  
関理事から、令和元年度科学研究費助成事業の配分について、資料に基づき報告があった。
  6. 令和2年度科学研究費助成事業の応募状況について  
関理事から、令和2年度科学研究費助成事業の応募状況について、資料に基づき報告があった。
  7. 令和3年度千葉大学入学者選抜方法の変更について  
小澤副学長から、令和3年度千葉大学入学者選抜方法の変更について、資料に基づき報告があった。
  8. 附属病院の経営状況について  
山本副学長から、附属病院の経営状況について、資料に基づき報告があった。

以上